



純資産は去年と比べて増えているの？減っているの？

本市の純資産の総額は 546 億 7,853 万円です。去年と比べて 4 億 1,306 万円増えました。

B: 純資産変動計算書

19 年度の純資産残高 542 億 6,547 万円

20 年度に増減した額の合計 4 億 1,306 万円

市税などからの収入	159 億 4,262 万円
補助金などの受入	38 億 4,209 万円
資産評価による変動額など	10 億 1,965 万円
純経常行政コスト*3	△ 203 億 9,130 万円



純経常行政コストってどうやって算出されているの？

資産形成以外の行政サービス経費から経常収益を差し引きます。

C: 行政コスト計算書

純経常行政コスト 203 億 9,130 万円



資産形成以外の行政サービス経費
213 億 2,134 万円

人にかかるコスト*4	54 億 7,461 万円
物にかかるコスト*5	52 億 4,515 万円
移転支的的なコスト*6	96 億 2,975 万円
その他のコスト*7	9 億 7,183 万円



経常収益*8 9 億 3,004 万円

使用料・手数料	6 億 3,751 万円
分担金・負担金・寄附金	2 億 9,253 万円



平成 20 年度中に現金はどのくらい増えたの？

本市は 3 億 7,654 万円の現金を持っています。20 年度は 2 億 1,563 万円増えました。

D: 資金収支計算書

19 年度までの現金残高 1 億 6,091 万円
20 年度末までの現金残高 3 億 7,654 万円

20 年度中に増えた現金 2 億 1,563 万円

日常的に使われる行政コストの収支	47 億 4,124 万円
公共資産整備などに使われるお金の収支	△ 9 億 9,914 万円
投資や財務に関するお金の収支	△ 35 億 2,647 万円



意味が分かれば、
もっと
見えてくる！

▼ことばの説明▼

* 1: 貸借対照表

本市の財産（道路、学校、公園など）と債務（借金など）を明らかにするもの。左側にこれまで取得した財産の総額を「資産」として示し、右側に資産を形成する際に要した資金の調達方法を示している。なお、将来にわたって負担すべきものは「負債」として、これまでに納められた市税や国・県からの補助金などは「純資産」として示している。

* 2: 有形固定資産

物質的な実体をもつ資産。土地、建物、構築物、機械装置、車両など

* 3: 純経常行政コスト

資産形成につながらない行政サービスを提供するためにかかった費用（行政コスト）から、行政コストを賄うために収益した額を差し引いて算出した額

* 4: 人にかかるコスト

行政サービスを行う職員の人件費や退職給与引当金など

* 5: 物にかかるコスト

物品の購入や光熱水費などの物件費、公共施設などの維持補修費、減価償却費など

* 6: 移転支的的なコスト

児童手当などの扶助費、他団体への補助金、他会計への繰出金など

* 7: その他のコスト

災害により被害を受けた施設の復旧費、借入金の支払利息、不納欠損額など

* 8: 経常収益

使用料や手数料、分担金、負担金、寄付金などで、経常コストを賄うために収益したもの